

令和 6 年 3 月 4 日

関係各位

武蔵丘小学校学校関係者評価委員会
委員長 山本 祐三

令和 5 年度 学校関係者評価委員会報告書

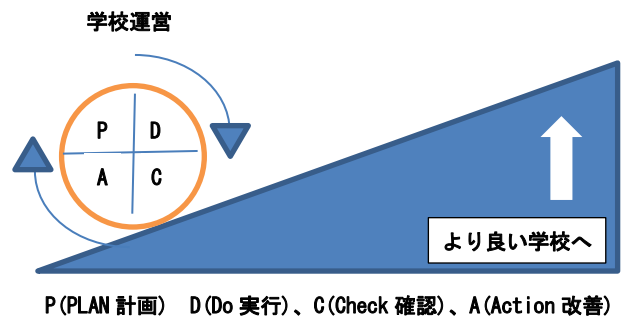
啓蟄の候、少しずつ暖かい日も増え始め、冬ごもりをしていた生き物達が目覚める季節となりました。まもなく年度の区切りを迎え、先生ならびにご尽力を頂きました関係各位の皆様には改めて感謝を申し上げます。児童・保護者・地域の皆様よりご意見を頂きました「アンケート結果」および先生方による「自己評価(教職員内部評価)」について内容を拝見させて頂き、次のようにご報告させていただきます。

はじめに（学校関係者評価委員会とは）

学校関係者評価委員会は、平成 19 年の学校教育法ならびに施行規則の改訂を受けて作成された「学校評価ガイドライン」により設置された組織になります。その活動内容は、学校運営の改善を図ることを目的とし、当該学校の教育活動の観察や意見交換を通じて、教職員の自己評価結果を確認し、客観性・透明性を高めることを基本としています。

<主な評価と確認のポイント>

- ・ 教職員内部評価(自己評価)の評価(C)
- ・ 今後の改善方策(方向性)の確認(A)
- ・ 重点目標・独自評価項目についての評価(P)
- ・ 改善計画立案および実行状況の確認(D)



※学校評価ガイドライン参照

「https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/01/30/1323515_021.pdf」

1、学習指導について（含む…独自項目「本をよく読んでいる」）

- ・ 教職員内部評価通り、児童の評価は概ね昨年度よりも**飛躍的に上向き**になっていました。校内研究による工夫の積み重ね、ならびにタブレット活用の習熟、そして教職員間の相互協力が本アンケート結果にも表れています。
- ・ また、教職員内部評価の会議では、今回高い水準であったにも関わらず「まだまだ改善の余地がある」等の意見も出ており、**飽くなき向上心**を含め高評価としました。

- ・学校独自項目である「本をよく読んでいる」においては「つまみ食い読書」等の推進活動を行い教職員の自己評価は高かったのですが、児童/保護者のアンケートでは昨年度を下回っていました。背景には「学習塾に通う児童が70%を超え多忙であること」ならびに「タブレット導入の副反応があること」が本委員会により共有されました。本を読む大切さは、知識を深めるだけではなく、他人(筆者)の価値観を知る機会となり、多様な価値観を知ることが、大切な感性である「人の気持ちが分かる心」に繋がるのではないかと考えます。次年度についても引き続き、司書の先生と連携しながら、更なる改善施策の実施をお願いいたします。保護者の皆様におかれましても、家庭での読書を推進して頂きますようお願い申し上げます。

2、生活指導について（含む…独自項目「自分からあいさつができる」「外でよく遊んでいる」）

- ・児童/保護者ともに昨年度よりも高い評価となっていました。特に「学校のルールについて考えて行動する(児童)」が飛躍的に上昇していました。単にダメだだけではなく「どうしてダメなのか(Why)」を教員が足並みを揃えて丁寧に対応された成果が数値に表れていると言えます。
- ・学校独自項目である「自分から挨拶をしている(児童)」「外でよく遊んでいる(児童)」においても高い水準を維持していました。こちらについても教職員が足並みを揃えて指導していくこと、熱中症に気を付けながら外に出る気持ち良さを感じて貰えるよう教職員から働きかけていく旨確認できました。挨拶や外遊びを通し「豊かな人格形成」と「健康な身体作り」に寄与出来ることを願っています。

3、学校行事について

- ・いずれの項目も高い評価を維持していました。次年度においても運動会や学芸会をはじめとした行事の指導、保護者や地域への発信/連携を含め、丁寧に準備していく旨、確認できました。今後とも武蔵丘小学校の良き文化として継承されることを願っています。

4、キャリア教育について

- ・教職員内部評価内において、保護者の回答に「分からない」が多いと前置きしつつも「肯定的な評価は高いとはいえない」と真摯に受け止めておられました。保護者に対しては「分からない」が多いことから「学校だよりや保護者会等で発信していく」との対策は、正しい現状把握とそれに応じた施策となっていると感じました。
- ・児童の評価においては「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」が昨年度より15%(79→64%)ほど下降していることに対して「高いとは言えない」と真摯に捉えておられました。しかしながら「キャリア教育の充実」では「全教員が肯定的な回答」を行い、特に児童に対する改善施策に触れないまま、保護者側への施策で締め括っています。キャリア教育については、世田谷区の重要テーマである為、下降原因を調査し、具体的な取り組みに繋げて頂けたらと思います。

5、教職員について

- ・児童ならびに保護者において、高い評価となっていました。教職員内部評価においても高い評

価に甘んずることなく、**更なる向上心を強く感じました**。先生方の日頃からの努力に敬意を表します。

6、全般について（含む…独自項目「武蔵丘小学校が好きである」）

- ・児童のアンケート結果において「武蔵丘小学校が好きである」ならびに「学校生活が楽しい」が、**更に向上**されていることを確認できました。自己肯定感にも繋がる大変良い傾向であり、**先生方における学校運営の成果の賜物**であると感じました。
- ・「家庭学習の定着」においては、学習塾に通う児童がおおよそ 70%いる中で、その増減を短絡的に評価出来ないのではと感じましたが、教職員内部評価では**闇雲に「タブレット」を活用するのではなく「紙」の良さも考慮**しつつ「家庭学習が確実に定着」するよう指導されるとのこと。その**意気込みに敬意**を表したいと思います。

7、学校からの情報提供について

- ・保護者、地域の皆様ともに「学校だより」「ホームページ」「すぐる」等により、**適切な情報提供**がなされ、**高評価**となっていました。また、保護者における学校公開や保護者会などの**評価も高く**、教職員内部評価においても、**引き続き各種情報提供、教職員の思いを発信**していく旨確認できました。
- ・一昨年度、当委員会において、「学校通信」の第 4 面が白紙であることを勿体ないとしてご指摘させて頂きましたが、今年度においては**良い情報提供の記載欄になっている**ことを確認できました。有り難うございました。

8、地域との連携について

- ・地域のアンケートにおいて、学校だよりの評価は極めて高い。またホームページを通じての情報発信についても**高い評価を維持**していました。
- ・保護者においても、読み聞かせ、ムサシスペシャルイベント、漢字検定など、地域の皆様からの多大なるご協力については**前年度を上回る評価**となっていました。
- ・「本校は地域に情報を提供している(保護者)」が一昨年度よりも 20%以上も減少していました。しかしながら教職員内部評価では「分からない」が多いことを理由に否定的な評価が多いわけではないと締め括っています。**「学校、保護者、地域」は相互理解ならびに連携運動によって、良い学校運営に繋がる**と考えます。特に「地域との連携」という観点で言えば「分からない」が多いから大丈夫と考えるのではなく、状況提供の在り方について今一度考えて頂けたらと思います。まずは高い評価結果であった令和 2 年～3 年の情報提供の在り方を調査されることから始めると良いのではないのでしょうか。

9、学校の安全性について

- ・安全な学校づくりに関して心配している保護者が増えていることがアンケート結果からも読み取れます。一方、教職員内部評価において「通学路の安全点検」が100%肯定的な評価(意見)となっていることに違和感を覚えました。適切な再発防止策を立案するためには、**正しい現状把握が極めて重要**です。また、適切な再発防止策を実施するためには「**過信**」が**最大の障害**になります。教職員内部評価会議におきましても、保護者の意識は**引き続き高い評価を維持**しているものの一昨年度よりも20%下がっていることに対し「必要な事を洗いだし次年度の計画を立てる」と**キャッチアップ**され結論づけておりますので、もう一度安全対策を見直し、児童が安心して過ごせる学校づくり、生活づくりに尽力していただきたいと思います。

10、学校運営について

- ・保護者/地域の皆様共に、**前年度よりも高い評価**となっています。教職員内部評価でも校長の「**経営方針**」ならびに職員への「**寄り添い**」「**尊重**」など**評価が高い**ことを確認できました。

11、その他

保護者のアンケート回収率について

前年度の電子アンケート開始時よりも、アンケート回収率が大きく減少しています。前年度はアンケート回収率方法(紙→電子)の違いによるものであること前提に考察しましたが、必ずしも**回収方法の違いだけではない**ことが、データから考察されました。

<全体 アンケート回答数と回答率>							(人)
区分	年度	H30	R1	R2	R3	R4	R5
児童	在籍数	503	529	521	560	569	188
	回答数	493	518	520	551	537	164
	回答率	98.0%	97.9%	99.8%	98.4%	94.4%	87.2%
保護者	在籍数	503	529	521	560	569	556
	回答数	428	447	462	493	325	253
	回答率	85.1%	84.5%	88.7%	88.0%	57.1%	45.5%
地域	配布数	47	47	52	52	53	53
	回答数	26	28	33	41	28	26
	回答率	55.3%	59.6%	63.5%	78.8%	52.8%	49.1%
調査方法		紙アンケート				電子アンケート	

※学年毎内訳 (R5年度)								(人)
区分	学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
児童	在籍数					91	97	188
	回答数					82	82	164
	回答率					90.1%	84.5%	87.2%
保護者	在籍数	79	105	99	85	91	97	556
	回答数	52	49	44	42	42	24	253
	回答率	65.8%	46.7%	44.4%	49.4%	46.2%	24.7%	45.5%

特に「6年生保護者」の回答率が1/4を下回っていることは特筆すべきと考えました。また、児童の回答率が下がっていることは改善して頂きたいと思います。この学校評価アンケートは、

武蔵丘小学校にとって、児童の思いを読み取れる重要なアンケートであると考えて頂きたいと思います。

当委員会でも、「地域との繋がりをより深める学校協議会の再開」ならびに現状の QR コードに加えて「クリック(タップ)すればアンケート画面に飛べる URL での表示」等の改善方法の提案がなされた。学校側におかれましても、**次年度に向けアンケート回収率アップ施策のご検討**をお願い申し上げます。

適切な学校運営の改善活動を行っていくには、より精度の高いデータが必須と考えています。保護者の皆様におかれましてもお忙しいところ大変恐縮ではございますが、来年度はぜひとも、**より多くのご意見**を頂戴できればと思います。

重点目標について

前回、当委員会の報告書下記の通り、ご指摘させて頂きました。また、ガイドライン(P10)にも『**重点化された目標設定が自己評価の始まりであり、重点目標は学校の課題に即した具体的で明確なものとする**こと、**総花的な設定を避けて精選することが重要**』と記載されています。改めて、来年度に向けてご検討をお願い申し上げます。また、**絞られた重点目標に対応したアンケート独自項目を設定**して頂くと、**施策効果の測定**ができますので合わせてご検討をお願い申し上げます。

＜前年度の学校関係者評価委員会による報告書(抜粋)＞

重点目標は、やや抽象的な印象があると感じました。来年度設定される重点目標は、必ずしも網羅的である必要はなく、上位目標である「学校教育目標」「目指す学校像」からブレイクダウンさせる形で、「今年度は何を重点的に実施していくか」を明確にすること、また、**期初の早い段階で具体的な施策**に落とし込むことを望みます。

おわりに

より良い学習、より良い学校生活を送るためには、学校だけではなく**各家庭における保護者の皆様のご協力が大切**と感じられました。両者が一層の情報共有と信頼関係で結びつき、地域のご協力のもと、全ての児童が充実した学校生活を過ごせるよう、今後とも、学校・保護者・地域による「チームむさし」の力が発揮されることを願っています。